加工～仕上げ：　概要

職務遂行のために必要な知識

（概要）

手工具及び工作機械によって、治工具や金型、機械組立に関する仕上げ作業を行う仕事。仕事は多岐にわたり、製作する製品・部品に応じて、手仕上げ、けがき、機械の組立・調整などの様々な種類の技能を組み合わせて行う。

（仕事の内容）

仕上げの仕事は、加工職種の中でもとりわけ高度な専門知識と熟練が要求される。仕上げの種類としては、要求される技能の性質によって、治工具仕上げ、金型仕上げ、機械組立仕上げの３つに大別される。

治工具仕上げでは、たがね作業、やすり作業、きさげ作業、穴あけ作業、けがき、みがき作業などの各種作業を行う。金型仕上げでは、ジグ研削盤や型彫盤などの工作機械を用いて部品のはめ合わせや平面のすり合わせを行い、製品の表面性と磨き性を高める熟練を必要とする。機械組立仕上げでは、機械のはめ込み作業、圧入作業、かしめ作業などにより、機械の分解・組立・調整・心出しなどを行う。

（求められる経験・能力）

（１）　入職に際して、公的資格は特に必要とされないが、高度な熟練技能や電気の知識が必要であるため、工業高校卒業者が多く従事している。普通高校から入職する場合は、職業訓練校などで製図や機械工作法などを学ぶことが望ましい。

（２）　技能検定（仕上げ）の資格（特級、１級、２級）を取得することで技能が社内で認められて地位が向上することが多い。また、転職時にも、資格保有者は有利である。

（３）　仕上工として必要な資質は、製品の原理や仕上げ・組立作業に対する興味や関心を持っていること、さらには仕上げ技法の技能向上への意欲を持っていること、そして心身ともにタフであること、などが挙げられる。

（関連する資格・検定等）

- 技能検定制度　（職種：仕上げ）　特級　　１級　治工具仕上げ作業、金型仕上げ作業、機械組立仕上げ作業　２級　（１級に同じ）
- 高度熟練技能者　（職種：仕上げ）